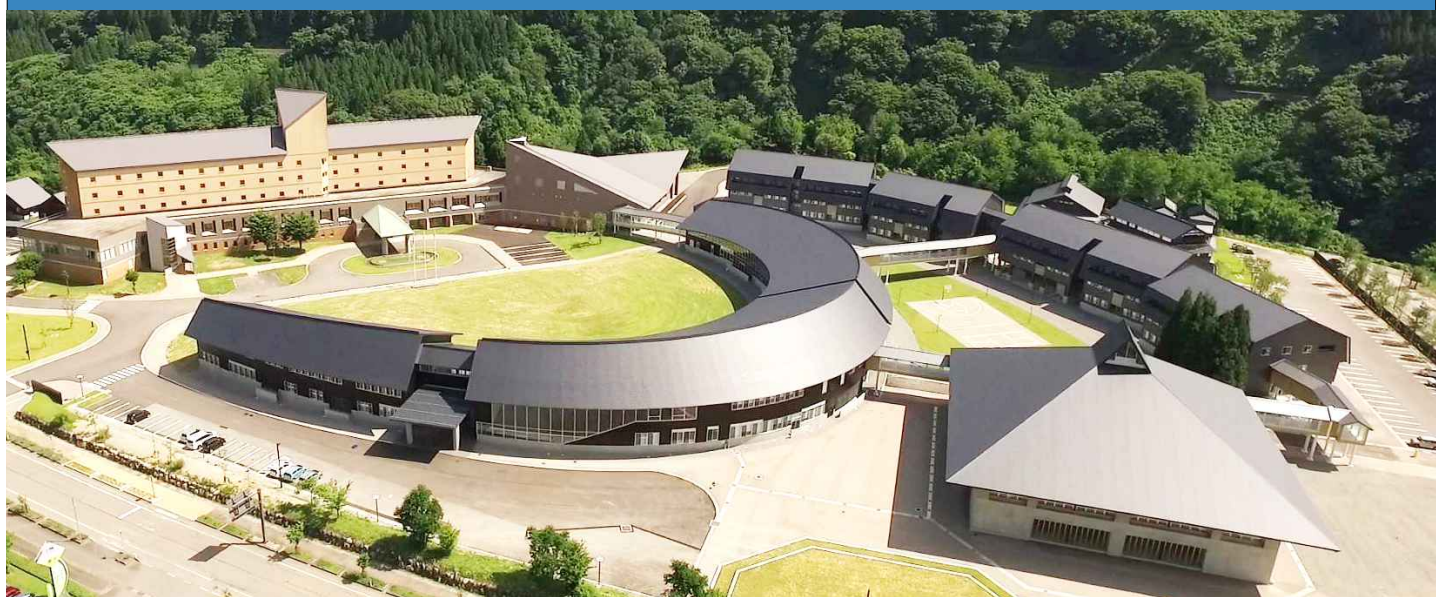


Japan SDGs Summit 2018

*Kanazawa Institute of Technology
International College of Technology, Kanazawa*



第1回ジャパン SDGs サミット in KIT

報告書
Summit Report

金沢工業大学 白山麓キャンパス



Japan SDGs Summit

*Kanazawa Institute of Technology
International College of Technology, Kanazawa*

**第1回ジャパン SDGs サミット in KIT
2018**

10.06 Sat. - 10.07 Sun.

**金沢工業大学 白山麓キャンパス
KIT イノベーションハブ**

第1回ジャパン SDGs アワード受賞団体・SDGs ビジネスアワード 2017 受賞団体を核とし、SDGs における日本中の知見を地方に集め、最前線の取り組みや状況を共有するとともに、関係性を強化することを目的として、第1回ジャパン SDGs サミットを開催いたしました。また、サミット2日目には、SDGs 時代を担う学生（小・中・高・大学生）を中心に、若者が主役のユースサミットを開催し、次世代に向けた取組みを共創しました。本サミットには、のべ110名（41機関）にご参加いただきました。この報告書は、各セッションの内容を中心に、本サミットについて取りまとめたものです。



DAY 1



KIT からのメッセージ

スポンサーセッション

- 発達障がい×デジタルテクノロジー
- 被災地支援と持続可能な都市空間
- テクノロジー×平和構築

パラレルセッション

- グローバルヘルス
 - SDGs 消費
 - 地方創生
- 

Day1 10.06 Sat.

11:00	Opening 金沢工業大学 学長 大澤 敏	
11:05	開催に向けたメッセージのご紹介	
11:20	本日のセッション・スポンサー ご紹介	
11:30	スポンサーセッション “発達障がい×デジタルテクノロジー” 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社	  
12:30	Lunch & ネットワーキング	
13:30	パラレルセッション	
	グローバルヘルス サライヤ株式会社 住友化学株式会社	モデレーター：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 公益財団法人ジョイセフ
	SDGs 消費	モデレーター：金沢工業大学
	パルシステム生活協同組合連合会 フロムファーマー株式会社	株式会社リバースプロジェクト 会宝産業株式会社
	地方創生 福岡県北九州市 金沢青年会議所	モデレーター：国連大学 OUIK 国立大学法人岡山大学
14:45	スポンサーセッション “被災地支援と持続可能な都市空間” コマニー株式会社 特定非営利活動法人しんせい 株式会社フォルク	 
16:00	スポンサーセッション “テクノロジー×平和構築” 株式会社テイコク製薬社 全日本空輸株式会社	 
17:00	Closing	
18:30	Social Gathering 夕食 & 交流会	

KIT からのメッセージ



金沢工業大学
学長

大澤 敏

このサミットの開催にあたり、初めて、大学として SDGs のネットワーク作りに貢献することができたと考えております。本サミットに至るまでには、多くの企業・団体の方々のご賛同を賜りました。この場にて、御礼申し上げます。

産業革命以来、人間は様々な活動をしてきました。幼い頃、「人間の活動のエネルギーは、自然の 70 分の 1 くらいで、それを超えると様々なことが起こります」と教えられたことを、今でも覚えております。そして、今日、テクノロジーが進歩して、その中で活動をしている我々は、地球環境が有限であるということを忘れがちです。かつて、産業革命というパンドラの箱が開き、人間は様々な恩恵を受けてきました。しかし、その反面、様々な歪みが生じています。こうした歪みの中で、最後に残っていた“希望”というものが、SDGs という形で地球全体に広がっていくことを祈念いたします。

本学は、未来の持続可能な社会を実現していく主役である若い人たちにも、高等教育機関の立場から貢献させていただきたいと思っております。



金沢工業大学
SDGs 推進センター センター長
平本 督太郎

この度、第 1 回ジャパン SDGs アワード受賞団体・SDGs ビジネスアワード 2017 受賞団体を核としたサミットを開催しました。上記のawardによって見える化された SDGs 先進組織が一堂に会することには、三つのメリットがあると考えています。一つ目は、情報共有を通じた SDGs の更なる理解の促進です。各組織が最新の推進状況を共有し、特定のテーマに対して意見を出し合うことにより、SDGs に紐づくトレードオフの実態やその解決のきっかけを理解することが出来ます。分野横断型で情報を共有しあうことは、SDGs 先進組織の更なる飛躍にもつながります。二つ目は、新たなパートナーシップの創造です。一堂に会することで、SDGs 先進組織間、他組織との対話生まれ、そこに共感が生まれることで、新たなパートナーシップが生み出されます。三つ目は、SDGs アクションの拡大です。SDGs 先進組織と対話を繰り返せる場があることによって、これから SDGs アクションに取り組もうとされる組織・人が一步を踏み出しやすくなります。特に、持続可能な社会の担い手である若者にとっては、自分たちの発想したアイデアを実現に移す際のヒントを得ることが出来るはずです。今回、サミットを行ったことで、実際に参加者の方々が上記三つ全てのメリットを得ることが出来たと実感しております。また、サミット全体を通じて、SDGs は「一人ひとりが立ち上がることが最も重要」というメッセージが提示されました。結果として全てのセッションを通じて共通して意識されたこのメッセージは、MDGs の時代との変化を強く実感させるものでした。ただの情報共有のイベントではなく、参加者一人ひとりが立ち上がるきっかけとしてのサミットとなったことを大変嬉しく思うとともに、2019 年度以降もこうした輪をどんどん広げていきたいと思っております。

スポンサーセッション

DAY
1

発達障がい×デジタルテクノロジー



11:30 - 12:30

本セッションでは、AI等のデジタルテクノロジーを活用した発達障がい者支援の方法について検討を行いました。SDGsは「誰も取り残さない」(No one will be left behind)を基本理念としています。最新テクノロジー活用により、障がいの有無に拘らず、誰もが豊かに暮らすためにどんなことが可能かを考えました。

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

常務執行役員

南雲 岳彦

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 常務執行役員。京都大学客員教授、コロンビア大学プロフェッショナル・フェロー、産業技術総合研究所(人工知能研究センター)客員研究員を兼務。前職の三菱 UFJ フィナンシャル・グループでは、執行役員・経営情報統括部長、経営企画部長、リスク統括部長を歴任。慶応大学卒、ジョージタウン大学 MBA、ロンドン大学開発金融学修士。



本スポンサーセッションは、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)(MURC)のスポンサーセッションとして、MURC 南雲常務執行役員より、発達障がい者の方々に対して MURC が取り組む AI 等の様々なデジタルテクノロジーをご紹介いただきました。その中で印象的だったトレードオフ課題が「取り残されてしまう人を支援するために特別扱いをすることで、その人たちの孤立化を招いてしまう」ということです。技術開発において、特定のユーザーをイメージすることは重要ですが、他方でユーザーが孤立しないようにするためには、あらゆる人が使える技術にしないとイケない。そのためには、バリアフリーデザインがユニバーサルデザインへと進化していったように、技術革新と共に社会的需要を喚起するためのブランディングが必要になるということが大きなメッセージとして提示されたと感じました。

Photo Gallery



登壇者



会場 金沢工業大学 白山麓キャンパス



SDGs パネル



Lunch & ネットワーキング



Social Gathering

スポンサーセッション

DAY
1

被災地支援と持続可能な都市空間



14:45 - 15:45

本セッションでは、持続可能な都市空間をテーマに、特に近年頻発する災害への対応として被災地支援のための各組織のこれまでの取り組みを共有しました。また、今後被災地支援・復興のために平時からどのように日本の技術や取り組みを備えておくべきかについて検討を行いました。

コマニー株式会社

常務執行役員 経営企画本部長

塚本 直之

1981年石川県生まれ。成蹊大学経済学部経済学科卒。2004年スタンレー電気(株)入社、2007年同社退社後、コマニー(株)入社。同年、トヨタ自動車(株)へ出向し、2010年コマニー(株)へ戻る。2015年執行役員就任、HPC推進室責任者兼務。2018年より現職。



特定非営利活動法人しんせい

事務局長

富永 美保

2011年より避難する障がい者のためのサロンを立ち上げる。サロンでは福祉サービスにつながらない避難者も受け入れ、幅広い方々が共に活動する場づくりを行ってきた。また、2013年からは特定非営利活動法人しんせいの理事として「企業」×「NGO・NPO」×「避難の続く福祉事業所」の協働の仕事づくりを行っている。



株式会社folk

代表取締役

三島 由樹

1979年生まれ。東京都出身。慶應義塾大学環境情報学部卒業。ハーバード大学大学院デザインスクール・ランドスケープアーキテクチャー学科修了 (MLA)。2015年に株式会社folkを設立し、地域社会や環境に関するデザインやディレクションなど、様々な領域・スケールのプロジェクトに横断的に携わる。



本スポンサーセッションは、コマニー(株)のスポンサーセッションとして、コマニー(株)塚本常務を始めとする登壇者より、被災地支援への取り組みの実態とそれにかかわるソフト・ハード双方に関する工夫や、事前復興等の新しい概念をご紹介いただきました。その中で印象的だったトレードオフ課題が「弱い立場にある人の安心・安全を確保するためのネットワーク形成が一人ひとりの気持ちを無視することにつながってしまう」ということです。取り残されてしまう人々を含めたコミュニティの形成を行う際に、弱い立場にある人が自分の役割を理解し、その役割を果たすことで自分が存在する意味を理解できる仕組みがなければ、本当の意味で取り残される人がいない社会を創ることは難しい。事前の計画づくりの際にもそうした一人ひとりの気持ちに寄り添ったコミュニティの在り方を考えていかなくてはいけないということが大きなメッセージとして提示されたと感じました。

スポンサーセッション

DAY
1

テクノロジー×平和構築



16:00 - 17:00

本セッションでは、技術開発と平和構築をテーマに、ヘルスケア、環境等の様々な領域で活用できるイノベーティブな技術の活用に関して、各組織のこれまでの取り組みを共有しました。また、今後優れた日本の技術や取り組みをどのように平和利用していくべきかについて検討を行いました。

株式会社テイコク製薬社

代表取締役

畠山 兼一郎

昭和 35 年生まれ。昭和 59 年、獨協大学法学部卒業後、大塚製薬入社。昭和 63 年、テイコク製薬社入社。平成 6 年同社代表取締役就任。現在は「集積機能性ミネラル結晶体（I F M C・イフミック）」を応用し、健康増進分野に限らず、幅広い分野において社会の課題解決に向けて大手企業との取り組みを始めている。



全日本空輸株式会社

デジタルデザインラボ

深堀 昂

2008 年に、ANA に入社。営利と非営利のタイアップモデル「BLUE WING プログラム」を発案、Global Agenda Seminar 2010 Grand Prize 受賞。2014 年より、ANA のプロモーションを担当し、ウェアラブルカメラで撮影したビジネスクラス体験プロモーション「YOUR ANA」を企画、実行。XPRIZE 財団主催の次期国際賞金レース設計コンテストにて、「ANA AVATAR XPRIZE」のコンセプトをデザインしグランプリ受賞。



本スポンサーセッションは、(株)テイコク製薬社のスポンサーセッションとして、畠山社長をはじめとする登壇者より、環境・経済・社会の循環により平和構築を実現する複数の技術をご紹介いただきました。その中で印象的だったトレードオフ課題が「技術発展が格差を広げ、争いを生むことにつながることもある」ということです。技術発展が進んでも、本当にそれを必要とする人には届かずに、一部の人のみが技術発展の成果を享受するようになってはいけません。そのためには、競争を重視する社会から協調を重視する社会への転換、技術者や利用者が倫理観を持って技術を開発・利用すること、そして、経営者がリーダーシップを発揮し、全体最適の視野を共有していくことの三つが必要であるという大きなメッセージが提示されたと感じました。



「発達障がい×デジタルテクノロジー」の様子



「被災地支援と持続可能な都市空間」の様子



「テクノロジー×平和構築」の様子

パラレルセッション

DAY
1

グローバルヘルス



13:30 - 14:30

本セッションでは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成するために、各組織のこれまでの取り組みを共有しました。また、今後日本の技術や取り組みを海外へと展開していくべきかについて検討を行いました。

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社

新事業開発室 副部長 Head, Center on Global Health Architecture

小柴 巖和

同社にて、BOP ビジネス等のコンサルティングに従事した後、企画部門にて創発系 WS や事業開発に取り組む。2017 年、Center on Global Health Architecture を設立。感染症、生活習慣病、公共調達制度改革等、グローバルヘルス増進に向け多角的な事業開発、コンソーシアム運営を手掛ける。

モデレーター



サラヤ株式会社

コミュニケーション本部 本部長

代島 裕世

2004 年から「ヤシノミ洗剤」の持続可能な原料調達の視点に立ったボルネオ環境保全活動を展開。2010 年「SARAYA 100 万人の手洗いプロジェクト」を立ち上げ、アフリカ・ウガンダでユニセフの正しい手洗い普及プログラムを支援開始。2011 年 BOP ビジネスの試みとして現地法人 SARAYA East Africa を設立し、アルコール手指消毒剤の現地生産を計画。2014 年 2 月現地生産開始。「病院で手の消毒 100% プロジェクト」を展開中。

パネリスト



公益財団法人ジョイセフ

開発協力グループ シニア・プログラム・オフィサー

吉留 桂

中学校で 3 年間英語教諭として勤務後、2001 年に国際協力 NGO である公益財団法人ジョイセフ入団。セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の推進・実現に向けた活動に従事。行動変容コミュニケーション、地域組織化などを中心に、アジア・アフリカ・ラテンアメリカで活動。

パネリスト



住友化学株式会社

CSR 推進部

野田 愛

1988 年大阪生まれ岸和田育ち。2012 年立命館大学国際関係学部卒業。同年住友化学に入社、愛媛工場 総務部（人事）勤務を経て、2016 年 9 月より CSR 推進部勤務。最初は、「SDG s って何？」と飛び交う横文字に困惑の毎日でしたが、今では数字を見るとつい「5 番は、ジェンダー平等！」と考えるようになりました。

パネリスト



パラレルセッション

DAY
1

SDGs 消費

12 つくる責任
つかう責任



13:30 - 14:30

本セッションでは、製品・サービスを提供する企業・組織だけではなく、生産者・消費者が協力して持続可能な生産・消費を実現するために、各組織のこれまでの取り組みを共有しました。また、日本の技術や取り組みの素晴らしさを多くの生産者・消費者に広げていくために行っていくべきことについて検討を行いました。

金沢工業大学

SDGs 推進センター長 経営情報学科 講師

平本 督太郎

メディアデザイン博士（慶応義塾大学）。経営情報学科講師を兼任。野村総合研究所にて日本政府・国連機関等と共に社会課題解決型ビジネスの推進に関する政策立案・事業創造支援を行い、その実績により社長賞を受賞。金沢工業大学着任後、現場統括としてジャパンSDGsアワード受賞に大きく貢献する。

モデレーター



パルシステム生活協同組合連合会

広報本部 企画・広報部 部長

杉村 剛是

1993年、店舗を持たない、週一回の宅配だけの生活協同組合パルシステムに入協。名前の通り個人(pal)の消費がより良い社会(system)の実現につながる仕事を心がけている。スローガンは『“選ぶ”で変わる「ほんもの実感！」くらしづくりアクション』。

パネリスト



株式会社リバースプロジェクト

共同代表

亀石 太夏匡

1971年東京都生まれ。学生時代から脚本家を志しながら俳優としても活動し、北野武監督「ソナチネ」等に出演。1993年、アパレルショップ「PIED PIPER」を渋谷で立ち上げ、ファッションシーンを開拓。その後、映画『カクト』『ぼくのおばあちゃん』『セイジ陸の魚』の脚本・プロデュースを手がける。2009年、伊勢谷友介と「人類が地球上で生き残るためにはどうするべきか」を理念に株式会社リバースプロジェクトを設立。

パネリスト



フロムファースト株式会社

代表取締役

阪口 竜也

発展するほど環境保全できる事業「みんなでみらいを」を運営。世界50カ国が参加するアントレプレナーオブザイヤーでセミファイナル受賞。2014年よりカンボジアで持続型の植林、森の叡智プロジェクトを開始。2015年COP21で森の叡智プロジェクトを発表。2017年SDGsビジネスアワード大賞受賞。著書「世界は自分一人から変えられる」

パネリスト



会宝産業株式会社

代表取締役社長

近藤 高行

1996年、金沢工業高等専門学校卒。2015年、代表取締役社長に就任。自動車中古部品を世界86カ国へ輸出し、自動車リサイクル業を通じて資源の再利用・再資源化を促し、循環型社会の実現に向けた活動を行う。また、経済産業省・JICA・JETRO、海外の現地政府・大学機関などと協力し、環境配慮型の自動車リサイクル事業を展開中。

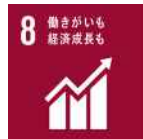
パネリスト



パラレルセッション

DAY
1

地方創生



13:30 - 14:30

本セッションでは、人口減少する日本、特に地方において、経済・環境・社会の循環を保ちつつ地域を活性化していくために、各組織のこれまでの取り組みを共有しました。また、今後日本の地方が培ってきた技術や経験をどのように国際的に発信していくべきかについて検討を行いました。

国連大学 OUIK

事務局長

永井 三岐子

JICA モンゴル事務所、国連大学グローバル環境情報センター（GEIC）、JICA-JST 水分野の気候変動適応策コーディネータなど、一貫して環境分野での国際協力業務に従事。2014年4月より現職にて、生物文化多様性に関する研究と政策の統合を軸に全体のマネジメントに携わる。2015年採択時から地域におけるSDGsの普及と、協働による実践に力を入れている。

モデレーター



福岡県北九州市

企画調整局政策部企画課 大学担当課長

松原 貴宏

福岡県北九州市出身。北九州市立大学を卒業し、1988年北九州市入職。経済局観光課、産業経済局企業立地支援課など、観光振興や企業誘致、自動車産業振興等を担当し、2017年企画調整局企画課（現職）に配属。現在は、大学担当課長として、大学生の地元就職促進や、北九州市立大学の設置団体業務等を行っている。

パネリスト



国立大学法人岡山大学

副理事・URA

佐藤 法仁

1976年生。学術分野は感染症制御学を専門とし、産業界では社会投資、新規事業開発を専門とする。行政では内閣府の科学技術政策フェローとして科学技術・イノベーション政策に従事。産・学・官それぞれの分野を結びつけながら同時並行で様々な業務に携わる。2017年より同大学総務・企画・評価担当副理事を務める。

パネリスト



金沢青年会議所

世界都市創造室 室長

河上 伸之輔

1981年金沢市生まれ。証券会社、M&Aコンサルティングファームを経て30歳で独立。不動産賃貸業をはじめ、コワーキングスペース、クラウドファンディングの運営など複数の事業を行っている。

パネリスト



パラレルセッション総括

3 すべての人に
健康と福祉を



グローバルヘルス

グローバルヘルスをテーマとした本セッションの中で取り上げられた印象的なトレードオフ課題としては「地球規模課題として医療手段を普及しようとする、価格の低下、需要の変化による過剰在庫の確保が原因となり、経済的な継続性が失われてしまう」ということがあげられます。この深刻な課題に対して、医療を受ける対象となる現地の方、一人ひとりが主体性を持ち、自ら必要な費用を稼ぎ、コミュニティ内の共有財産を蓄えていけるように、現地密着型の支援を継続的に行っていくことが重要であるという大きなメッセージが提示されたと感じました。

12 つくる責任
つかう責任



SDGs 消費

SDGs 消費をテーマとした本セッションの中で取り上げられた印象的なトレードオフ課題としては「経済成長や便利さ、人々の健康を促す製品・サービスを追求した結果、環境が破壊されていく」という、地球との共生にとって最も根本的な課題があげられます。これに対して、製品・サービスに関する情報を積極的に開示するということを前提とし、生産地である地域や生産者である企業が重視をしてきた思いによって消費者一人ひとりの行動を促すようなストーリーメイキングが重要であること、容易に楽しく対話が出来るような場づくりやカードゲーム等のツールの開発、そして SDGs の共通言語としての機能を最大限に活用することの三つが有効であるという大きなメッセージが提示されたと感じました。

8 働きがいも
経済成長も



地方創生

地方創生をテーマとした本セッションの中で取り上げられた印象的なトレードオフ課題としては「地方創生において地域性の強化のために地域のプレイヤーの活動を重視しすぎると、結果として地域外の取り組みに目が向かなくなり、地域内でのパートナーシップが均一化され、地域内の多様性がなくなってしまう」があげられます。これに対して、自分たちが活動している情報、地域内で把握しているニーズを積極的に地域外に情報発信し、地域外のプレイヤーの参画を促すとともに、多様な人々への求心力となる地域における長期的なビジョンを提示することが重要だという大きなメッセージが提示されたと感じました。



「グローバルヘルス」の様子



「SDGs 消費」の様子



「地方創生」の様子



DAY 2



ICT からのメッセージ

セッション①

- プレゼンテーション
- ビギナー向け SDGs カードゲーム

セッション②

- Tシャツのデザイン
- カードゲーム作成
- 日めくりカレンダー
- 空間創出ゲーム

セッション③



Day2 10.07 Sun.

10:00 Opening

10:05 開催に向けたメッセージのご紹介

10:10 導入・ショートムービー

協力：吉本興業株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社リバープロジェクト

10:45 セッション① SDGs カードゲーム等

- プレゼンテーション（10分×3団体）
- ビギナー向け SDGs カードゲーム

12:00 Lunch

12:50 セッション② グループワーク

- [1] Tシャツのデザイン
2030年の理想の世界をTシャツにデザインし、オリジナルTシャツを作成する。
- [2] カードゲーム作成
小学生から大学生まで楽しめるSDGsカードゲームを考える。
- [3] 日めくりカレンダー
過去におきた出来事と、SDGsの17項目を関連させ、そこから毎日の目標を考える。
- [4] 空間創出ゲーム
体育館の通常時と災害時の利用方法について、楽しみながら考えられるボードゲームで、ワークショップを実施する。

15:15 セッション③ 成果発表・2019年までのアクション宣言

16:00 Closing

ICT からのメッセージ



国際高等専門学校
校長

ルイス・バークスデール

SDGs には 17 のゴールが掲げられており、これに取り組まなければならない事を、大変だと捉える方もいるかもしれません。特に最近のニュースでは、テロ事件・紛争・難民の問題等について、耳にする事が多いように思います。しかし、長期的に考えれば、世の中は確実に良くなりつつあります。例えば、何百年も前であれば、食べるものにも困るような生活が一般的で、平均寿命も 40 歳を下回っていましたが、今では改善しています。現代においては科学技術産業の発展で、環境問題も発生していますが、次第に解決していく傾向にあります。これは、多くの人々が、世の中の仕組みを理解し、目の前にある問題の解決に向けて、新しいものを生み出そうとする努力を怠らなかったからです。

このように、新しいものを生み出し、世の中をより良いものに変えていくことを私達はイノベーションと呼びます。一人ひとりが SDGs に対する意識を持ち、世の中を理解し、より良い社会に向けて行動して行けば、SDGs の達成は決して不可能ではありません。SDGs には様々なゴールが掲げられていますが、大きく考えすぎず、"step by step" で、世の中をより良い物にできるように、一人ひとりが自分自身のミッションを発見し、努力を重ねていきましょう。



セッション① SDGs カードゲーム等

DAY
2

10:45 - 12:00

プレゼンテーション

外部からも高い評価を受けている SDGs 活動を展開しているユース 3 団体が発表いたしました。



北陸学院小学校（石川県）



まんてんキッズ那須塩原教室（栃木県）



真未来塾（長崎県）

ビギナー向け SDGs カードゲーム

株式会社リバープロジェクトと、金沢工業大学 学生プロジェクト "SDGs Global Youth Innovators" が共同で開発したカードゲームを体験しました。



カードゲームの説明



会場全体の様子



カードゲームの様子

学生プロジェクト "SDGs Global Youth Innovators"

"SDGs Global Youth Innovators" は、「私たちは私たちの未来を救うために」を理念に、SDGs 達成に取り組む学生プロジェクトです。「これからの世界を担っていく学生が主体となって SDGs の考え方を世界中の人に広める」「プロジェクトが作り上げるコミュニティが世界を救う人材のオアシスとなり、その成長の手助けをする」ことを目的とし、精力的に活動しています。本サミットにおいては、ユースサミット（Day2）のファシリテーター・運営を担当しました。



SDGs カードゲームとは



『THE SDGs Action cardgame「X（クロス）」』（以下、X）は、金沢工業大学 学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」と、株式会社リバースプロジェクトが共同で開発したカードゲームです。

本カードゲームは、トレードオフ※¹カードとリソースカードの二種類のカードにより構成されています。トレードオフカードはSDGsの17個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、リソースカードには問題解決のために活用可能なAIやロボットなどの技術や製品、サービス等のリソースが描かれています。

共同開発においては、SDGs時代を担う学生の視点を重視するため、金沢工業大学独自のSDGsに特化した教育カリキュラムを受講した学生で構成された学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」が企画・制作・運営を担当しています。そして金沢工業大学SDGs推進センターが専門的な観点から、また株式会社リバースプロジェクトがデザインの観点から企画・制作に参画しています。

すでに17ヶ国、1000名以上の方がXを体験しており、「SDGsに関するアクションについて具体的なイメージがついた」「難しい社会課題の解決について話しているのに笑い声が絶えないのが凄い」「自分独自のカードゲームを作れるところが斬新」等の高い評価を受けています。また、SDGs未来都市に選定された自治体の産官学共同の研修に正式採用され、セクターを超えた円滑な連携のために活用されています。さらに今後、小学生・中学生版、特定の企業版等の作成支援をしていくこととなっています。



カードゲームのダウンロードはこちらから。
日本語版・英語版のダウンロードが可能です。
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/application.html>

※ 1

トレードオフ：何かを得ることで別の何かが失われる状況のこと。SDGsにおいては、特定の社会課題を解決することで新たな社会課題が生まれてしまう状況を指す。SDGsのコンセプトである「誰一人取り残さない」を実現するためには、必ず解決しなければならない状況である。

セッション② グループワーク

DAY
2

12:50 - 15:05

学生プロジェクト“SDGs Global Youth Innovators”がファシリテーターとなり、4チームに分かれてグループ活動を行いました。

〔1〕Tシャツのデザイン

2030年の理想の世界をTシャツにデザインし、オリジナルTシャツを作成しました。



〔2〕カードゲーム作成

小学生から大学生まで楽しめるSDGsカードゲームを考えました。



〔3〕日めくりカレンダー

過去におきた出来事と、SDGsの17項目を関連させ、そこから毎日の目標を考えました。



〔4〕空間創出ゲーム

体育館の通常時と災害時の利用方法について、楽しみながら考えられるボードゲームで、ワークショップを実施しました。



セッション③ 成果発表・2019年までのアクション宣言

DAY
2

15:15 - 16:00

セッション②での活動成果を発表し、2019年までのアクションを宣言しました。



ご協賛企業

ダイヤモンド



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

プラチナ



あ、ココにもコマニー
コマニー株式会社



株式会社ティコク製菓社

シルバー



株式会社エコシステム

ブロンズ



株式会社すららネット



東亜道路工業株式会社



北菱電興株式会社

全体報告

本サミットには、2日間を通じて、のべ110名（41機関）が参加し、36名のスタッフが運営に携わりました。また、ご登壇者・ユースサミットに参加した学生たちは、ご協賛企業様ならびに参加者様からのご支援を受け、招聘させていただきました。本サミットの趣旨にご賛同いただき、ご協賛を賜りました皆様、ご参加いただきました皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

サミット期間中の飲料提供は、各自でノベルティのボトルをご利用いただく形式といたしました。また、食事は地産地消やフードロスを意識したものとし、運営にもSDGsの観点を取り入れるよう、心がけました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



金沢工業大学

SDGs 推進センター

〒921-8501

石川県野々市市扇が丘7-1

Tel. 076-294-6982

Mail. kit-sdgs@kanazawa-it.ac.jp

www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/



Japan.
Committed
to SDGs



金沢工業大学は持続可能な開発目標を
支援しています

2019.01